平成 29 年 7 月 9 日

ところ会　7 月行事案内

青梅の名刹・古社・勝沼城を訪ねる

今回のコースは神澤さんから紹介された「歴史古街道団」の資料を元に作成しました。

記

■日　　時：平成 29 年 7 月 7 日（金）
8:55 新宿行きホーム前方に集合して下さい。
小雨決行：5 日夜の天気予報で判断するので、6 日朝までにメールで連絡します。雨天中止の場合は　7 月 21 日（金）に延期です。

■**見学場所及び時間：コース全長約 7.5km　多少起伏があります**
所沢駅(9:00)東村山－小川－拝島経由－青梅駅(10:00) ⇒
梅岩寺⇒映画看板通り⇒住吉神社⇒乗願寺⇒**昼食**⇒虎柏神社⇒
天寧寺⇒師岡神社・光明寺⇒勝沼城⇒妙光院⇒六万薬師堂⇒
東青梅駅…拝島経由所沢（予定時間 16:30 頃）

■**昼食：**薪釜屋 YOSHIZO（イタリアン）　　☎0428-84-0663
ランチコース：税込 1500 円（前菜、ピッツァ、パスタ、ドリンク）

■**交通費**（所沢から）：約 980 円

青梅地方は古くから「杣保（そまのほ）」と呼ばれ、材木の生産・流通拠点として繁栄していました。室町時代後期に将門の後裔と自称する**武蔵三田氏**は**勝沼城**を本拠地とした国衆として活躍をしていましたが永禄４年（1561）に滅亡し「多摩地方の悲劇の三武将」の一人と云われています。周辺には将門、三田氏に関連した伝説、伝承、神社仏閣などが残されています。

梅岩寺

梅岩寺は長徳年間（995～999）に寛朝が開山したといわれる真言宗豊山派の古刹で龍光山と号します。慶安 2 年（1649）には江戸幕府より寺領 5 石の御朱印状を

拝領したといいます。

梅岩寺は**枝垂桜**が有名で本堂前に１本、奥の山沿いの斜面に１本あります。本堂前の桜は**市天然記念物**で、紅色が濃く樹齢は約 150 年の大木です。

「多摩八十八ヶ所霊場 46 番」、「奥多摩新四国霊場八十八ヶ所 70 番」です。境内には弘法大師さまの像や足形がお祀りされています。

映画看板通り

旧青梅街道に沿った住江町の街並みの建物に昭和 30 年代を彷彿させるような映画看板が数多く掲げられています。みな、往年の名作と言われたものばかりで風情ある街並みと手書きの看板は何とも言えない昭和浪漫の雰囲気を醸し出しています。これらの看板を最初に手掛けたのは平成 6 年で、青梅市生まれで日本最後の看板師が青梅市の町おこしの一環として始めた事業でした。平成 21 年からは、明星大学造形芸術学部の絵画コースの学生有志が中心となり新たに 27 枚の看板が完成し、全部で 100 枚以上になっています。

赤塚不二夫会館、昭和レトロ商品博物館等は有料なので入場しません。

住吉神社

77 段の階段を登った先にある住吉神社は、南北朝の応安 2 年（1369）、延命寺を開山した季竜が**摂津国の住吉明神**をこの地に祀ったのが始まりと伝えます。慶長 18 年（1613）には雷火で焼けています。**変形春日造**りの本殿は正徳 6 年（1716）に建立され、棟札には泉州（大阪府）出身の大工名などが記載されており、上方建築の影響が見られます。また、拝殿・幣殿の再建は、文政 7 年（1824）天保 6 年（1836）頃と推定され、江戸時代に建てられた本殿・拝殿・幣殿が一体として残り、大変貴重です。青梅の画家小林天淵（てんえん）が描いた拝殿天井の雲龍図は市指定文化財、拝殿の彫刻も見事で海老虹梁には透かし彫りが施されています。

本殿の右手には小林天淵の筆塚があり裏面には梅が彫られています。

乗願寺

中世に勝沼城を築き、青梅、奥多摩、名栗川筋までの広い範囲を支配した**三田氏ゆかりの寺院**の一つが、乗願寺です。

時宗勝沼山乗願寺は正安 2 年（1300）三田下総守長綱が他阿真教上人（遊行上人 2 世 たあしんきょう）を迎え、開山したと伝えられます。三田政定の嫡男である綱秀が使用したと伝わる兜前立と軍旗が伝わっています。軍旗は縦 102cm、横 71cm の絹地で上部が欠損していますが三田氏が戦中に使用した扇紋と三つ巴紋が染め抜いてあります。

昼食：薪釜屋 YOSHIZO　**にて**（11：30〜12：30 予定）

虎柏神社（東京都指定史跡）

虎柏（とらかしわ）神社は崇神天皇の代の創建と伝えられ、**延喜式神名帳**に記載されている古社の一つです。また天慶 3 年（940）には**平将門征伐軍の源経基が、諏訪上下大神を勧請**したと伝えられていますが、永正年間（1504〜21）に**勝沼城主三田氏宗によって再興**されたと伝えられています。

また、江戸時代中期に作られた縁起によると、天正 18 年（1590）**浅野長政**が正殿に諏訪社、東の相殿に虎柏神社、西の相殿に疫神を定め、小曾木郷の総社としたことが記されており、**江戸時代には諏訪明神社と称していました**。今でもバス停名は「諏訪神社前」となっています。天正 19 年（1591）11 月、徳川氏より**朱印地３石**を賜わり幕末まで続き、明治 3 年（1870）には社号を旧名の虎柏神社に改め、虎柏神社を正殿、諏訪社を東側に遷座し明治 6 年に郷社となっています。建物は、江戸時代中期の享保 19 年（1734）青梅村大柳の張海次郎兵衛が棟梁を努め、羽村村根岸の大工・宮川善右衛門らが工事に携わり建立されたものです。構造は**三間社**※、切妻造、茅葺で、間口 4.87m、奥行き 2.84m となっています。現存する建物は江戸時代の安永 6 年（1777）に修理が行われていますが、その後、明治 25 年、39

年、42 年にも修理が行われています。この本殿は、公儀普請の建物を除くと、東京都の中でも数少ない三間社の遺構のひとつです。

（※三間社：①一棟の中に、神殿が三つ並んでいる神社
②神社本殿の母屋正面の柱間が三つある形式のもの）

天寧寺

曹洞宗高峰山天寧寺の歴史は平安時代、天慶年間（938～946）まで遡ります。高峰寺の名で**平将門が創建**、後に兵火にあい一時は廃寺となりましたが室町時代の文亀年間（1501～1503）杣保（そまのほ：青梅周辺）の領主であった氏宗の嫡男**・三田弾正忠政定が再興**して天寧寺と命名、山梨県の廣厳院二世であった一華文英（いっか・しえい）和尚を招きました。政定は大永元年（1521）の刻の銅鐘を天寧寺に寄進しています。

総門の額に書かれた「梅華林」の文字は、この寺が修行僧を受け入り、仏法を授ける寺であることを伝えています。

山門:建立は江戸時代宝暦 10 年(1760)山門の左には多聞天、右には増長天が睨みをきかしています。

鐘楼：吊るされている鐘は国指定重要美術品。三田弾正忠政定が寄進したも。

中雀門：建立は嘉永 6 年（1835）桃山時代の唐門の様式です。

僧堂：修行僧と座禅と生活をする場です。

本堂：宝永 4 年（1707）に再建。**内陣が建物の中心より左寄りに位置**しているのは、曹洞宗特有の客殿型法堂です。

師岡神社

師岡神社の祭神は伊邪那美命、速玉之男命（はやたまのおのみこと）、事解之男命（ことさかのおのみこと）を祀る。創建は嘉元年間（1303～1305）、宝蔵山光明寺草創の際、寺門の守護として勧請したと伝え、江戸時代には熊野三社権現と称した。明治 2 年現在の社名に。

師岡神社のシイと呼ばれるスダジイの樹が、本殿の隣と階段脇の 2 本ある。樹齢は 200～300 年幹周りはそれぞれ 5.4m、4.3m です。神社より青梅市天然記念物のシイの方が有名です。

光明寺

光明寺の本尊は如意輪観音菩薩です。天寧寺 3 世霊隠宗源が開山で、天文 3 年（1534）創建されました。大塚にある**六万部薬師堂**を管理しています。なお、平成三年に庫裡の改修、客殿の新築が行われました。

勝沼城（師岡城）

応永 20 年（1413）6 月三田氏は武蔵杣保の領主として存在し謹上勝沼殿御返報とあり、勝沼に居住していた事が伺える。永正元年（1504）3 月城に入って防備を固めるように三田氏に命じており、この時期には勝沼城が存在していた。

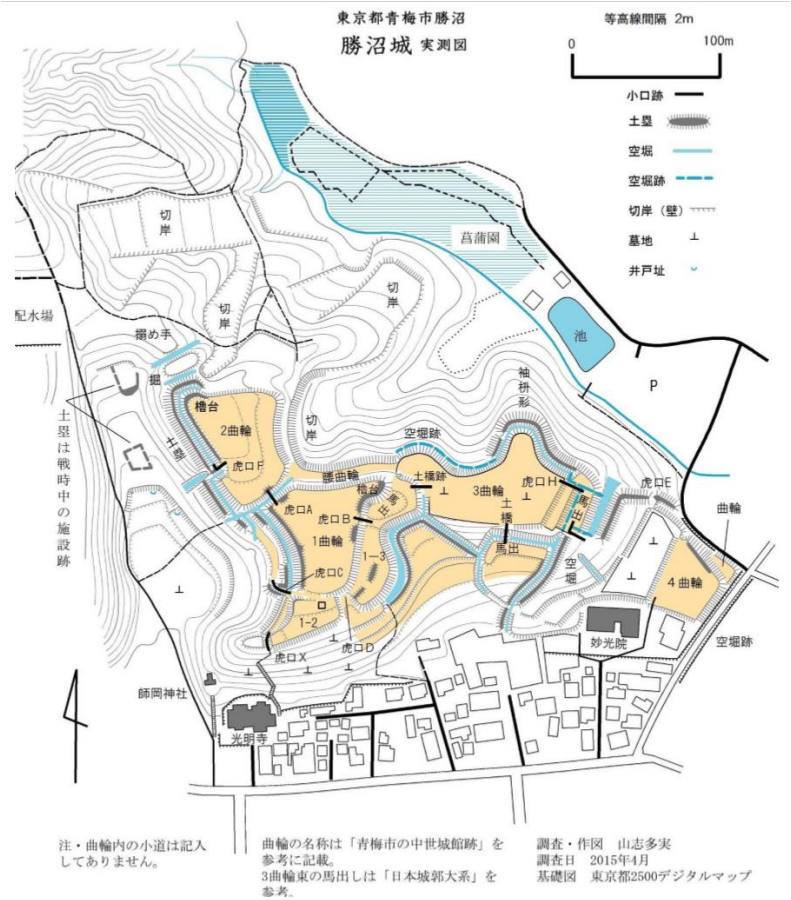
三田氏：三田氏は**平将門の後裔を名乗っている**が定かではない。古くからこの地を支配していた三田氏が周辺地域に勢力を広げた室町期（1336 年頃～1573）に関東管領・山内上杉の被官となり、武蔵国の有力な国衆（国人）に成長していました。

城跡は、霞川を望む丘陵地に位置しており、比高は約 30mほどです。現在は主に三つの曲輪で構成されていますが、日本城郭大系によれば妙光院北東に空堀・馬出があったが現在は一部が埋められてしまっています。

城跡に行って見たが、説明板等はなく素人には頂上付近の平らな所が曲輪の跡だろうという程度しか判らなかったのですが行って見ましょう。

光明寺の裏手から登ります。

（次頁勝沼城実測図参照）



妙光院

妙光院は、師岡にあり地久山と号します。本尊は千手観音菩薩です。天正２年（1574）、天寧寺６世九山整重を開山として師岡山城守将景の姉・妙光尼が開基と伝えられます。慶安２年（1649）寺領３石の朱印状を拝領した。**本尊千手観音像**の背部に「武州杣保内野上郷地久山妙光禅院于時天正十三年」と銘文が刻されていて、市有形文化財に指定されています。平成４年、新しい客殿を完成した。

六万部薬師堂

六万部薬師堂は天正 18 年（1590）悪疫が流行したので、正翁長達が法華経六万部を誦して祈祷し、一華文英が所持していた薬師像を本尊として建立したものと伝えられます。